

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	74人	算数	74人	理科	74人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	63人	算数	63人	理科	63人
------	----	-----	----	-----	----	-----

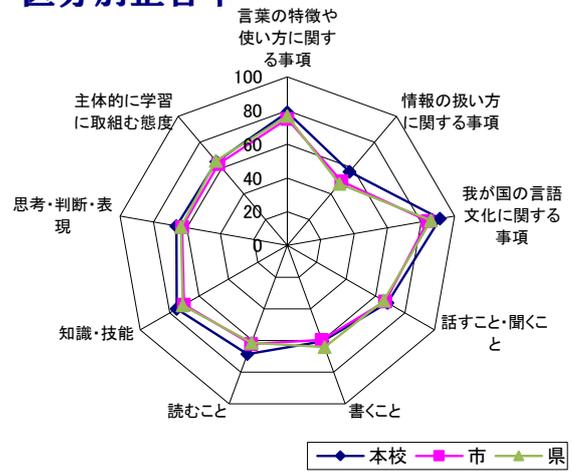
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽東小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	79.0	75.1	76.7
	情報の扱い方に関する事項	57.0	49.6	47.8
	我が国の言語文化に関する事項	91.3	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	68.1	66.5	65.5
	書くこと	60.5	59.6	64.2
	読むこと	68.6	62.2	61.5
観点	知識・技能	75.2	70.2	71.1
	思考・判断・表現	66.3	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	64.9	63.0	65.5



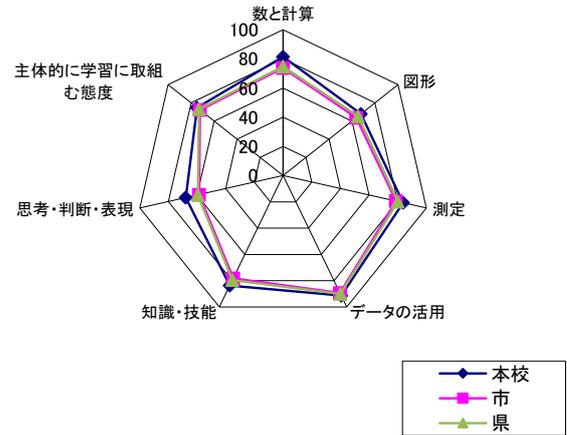
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○平均正答率は、県・市の平均を上回っている。 ○特に主語と述語の関係についての理解が高い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・文章を書くときに、主語述語を意識させる。 ・日常の中で漢字を使用できるように、指導を継続する。
情報の扱い方に関する事項	○全ての問題において、平均正答率は、県・市の平均を大きく上回っている。 ○国語辞典の使い方をしっかりと理解している。 ○いくつかの与えられた情報の関係を理解する力が育っている。	・分からない言葉を国語辞典で調べる習慣を身に付けることで、国語辞典を使うことに慣れさせる。
我が国の言語文化に関する事項	○平均正答率は、県・市の平均を上回っている。 ○漢字のへんやつくりについての理解度は高い。	・漢字の学習において、へんやつくりについての指導を継続する。
話すこと・聞くこと	○平均正答率は、ほぼ、県・市の平均を上回っている。 ○互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめることができている。	・話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えられるよう、話し合い活動の聞き取りを充実させていく。
書くこと	○●平均正答率は、市の平均を0.9ポイント上回っているが、県の平均を3.7ポイント下回っている。 ●理由や条件を明確にして自分の考えを文章で書く問題の平均正答率は、県の平均より4.7ポイント低い。	・段落の役割を確認し、自分の考えを、理由や条件を明確にして表現させる活動を、日常的に取り入れていく。 ・書き方のパターンやルールを反復練習で身に付けさせる。
読むこと	○平均正答率は、県・市の平均を上回っている。 ○文章を読んで感じたこと・分かったことを共有したり、中心となる語や文を見付けて要約したりすることはできている。 ●叙述を基に、場面や段落の内容を捉えることが課題である。	・話すこと・聞くことの問題においても、話し手が伝えたいことの中心を捉えることや要約することができている。 ・物語を読む際に、時間や場所を表す言葉に線を引かせるなどして、場面を意識させるような指導を行う。

宇都宮市立陽東小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	81.5	73.8	74.8
	図形	67.8	63.7	65.3
	測定	83.8	78.9	80.1
	データの活用	91.3	89.3	90.0
観点	知識・技能	83.8	78.3	79.5
	思考・判断・表現	67.9	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	74.8	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

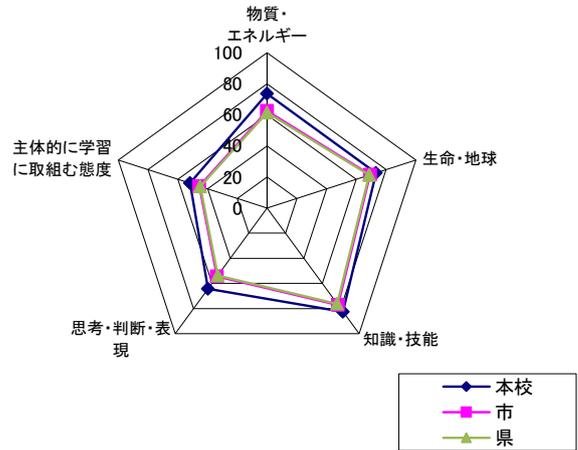
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○平均正答率は、県・市の平均を大きく上回っている。</p> <p>○数直線上に示された分数を読み取る問題では、県の平均を10ポイント以上上回っている。</p> <p>○整数-小数第一位の計算の問題では、県の平均を18ポイント以上上回っている。</p> <p>○除法(余りあり)の文章問題では、県の平均を13ポイント以上上回っている。</p> <p>○□を使った加法の式に合った文章を選ぶ問題では、県の平均を14ポイント以上上回っている。</p> <p>●かけ算の暗算を説明する問題の正答率は、県の平均を上回ってはいるが、6割に満たない正答率である。</p>	<p>・個別指導を充実させ、基礎学力を定着させる。</p> <p>・これまでどおり、Aドリルや繰り返しドリルを解くだけでなく、様々な形式の問題を学習することで基礎的な計算力をさらに身に付けさせていく。特に短答形式の問題にも慣れるようにしていく。</p>
図形	<p>○平均正答率は、県・市の平均を上回っている。</p> <p>●円の中心と円周上の2点を結んでできる三角形が二等辺三角形になる理由を説明する問題の正答率は、県の平均を上回ってはいるが、2割に満たない低い正答率である。</p>	<p>・円や球の直径や半径など、基本的な事項を確認し、基礎学力を定着させる。</p> <p>・コンパスや三角定規を使った作図の反復練習をすることで技能の定着を図ると共に、知識の向上も目指す。</p>
測定	<p>○平均正答率は、県・市の平均を上回っている。</p> <p>●身近にあるものの重さを推察して適切な単位を使って表す問題では、県の平均を約6ポイント下回っている。</p>	<p>・生活と結び付けながら、距離や長さ、重さを意識する場面を多く取り入れて、距離や長さ、重さの単位のイメージをもたせ、理解させる。</p>
データの活用	<p>○平均正答率は、県・市の平均を上回っている。</p> <p>●棒グラフで1目盛りを表す数を問う問題では、県の平均をわずかに下回っている。</p>	<p>・様々な目盛りの棒グラフに触れさせることにより、グラフを読み取る力をさらに育てていくとともに、目盛りの読み取りにもつながるテープ図や数直線を授業の中で、積極的に活用していく。</p>

宇都宮市立陽東小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	73.6	62.5	61.5
	生命・地球	73.2	69.2	68.6
観点	知識・技能	82.6	77.2	76.3
	思考・判断・表現	64.3	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	51.8	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○全ての問題において、どの正答率も県の平均を5ポイント以上上回っている。</p> <p>○平均正答率は県の平均を12.1ポイント上回っている。</p> <p>○光の性質の問題では、虫眼鏡が光を集めることを答える問題で20.8ポイント県の平均を上回っている。</p> <p>○音の性質の問題では、糸電話の音の伝わり方を答える問題で17ポイント県の平均を上回っている。</p> <p>○物の重さの問題では、種類の異なる物質を同じ重さにしたときに、体積がどうなるかを答える問題で、県の平均を18.9ポイント上回っている。</p> <p>●磁石の性質の問題では、方位磁針の針として使えるかどうかを判断してその理由を説明する問題の正答率が31.9%で、県の平均より6.8ポイント上回っているものの、理解度は高くない。</p>	<p>・実際に実験をすることで子供たちの理解が深まるので、今後も実験を大切にして、一人一人の理解につなげていきたい。</p> <p>・物事を判断し、理由を説明する力を付けるために、じっくりと考える時間や自分でまとめる時間を十分に確保していく。</p>
生命・地球	<p>○平均正答率は県の平均を4.6ポイント上回っている。</p> <p>○ダンゴムシとショウリョウバッタのすみかを答える問題の正答率が97.1%で、県の平均よりも5ポイント上回っており、よく理解できている。</p> <p>○太陽と地面の様子の問題では、影ふみ遊びにおいて影を踏まれにくい逃げ方とその理由を答える問題でも9.6ポイント県の平均を上回っている。</p> <p>●虫眼鏡の使い方の問題の正答率が47.8%で、県の平均を3.1ポイント下回っている。</p> <p>●太陽と地面の様子の問題では、影ができる場所を答える問題の正答率が33.3%で、県の平均よりも2.2ポイント下回っている。</p>	<p>・実験器具の使い方については、正しい使い方を毎回確認し、繰り返し経験させ、身に付けさせる。</p> <p>・体験活動や実験・観察を大切にするとともに、そこで抑えるべき基本的なことを正しく理解できるよう、指導方法を工夫する。</p> <p>・天体の内容は児童が理解しにくいいため、方位や太陽の動き、影のできる場所について丁寧に扱う。</p>

宇都宮市立陽東小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「1か月に、何冊くらい本を読みますか」について「11冊以上」と回答した児童の割合が39.1%と、市の平均よりも12.7ポイント高い。普段から本に親しむ児童が多いことが分かる。また「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている」の肯定割合が68.1%で市の平均よりも9ポイント高く、学習にも生かしていることが伺える。

○「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」の肯定割合は88.4%で、市の平均より3.9ポイント高い。

○授業形態に関する質問で「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」では市の平均より12.5ポイント、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」では2.9ポイント高かった。「クラスは発言しやすいふん囲気である」は5.5ポイント高い。日々の授業や自分のクラスに満足している児童が多いと考えられる。

○「学級活動の時間に、友達同士で話し合っクラスのきまりなどを決めている」では市の平均より6.4ポイント、「自分はクラスの人の役に立っている」では10.6ポイント、「学校での役わりや係の仕事にせきんをもって取り組んでいる」では6.4ポイント高かった。クラスでの自分の存在意義を感じながら生活している児童が多い。

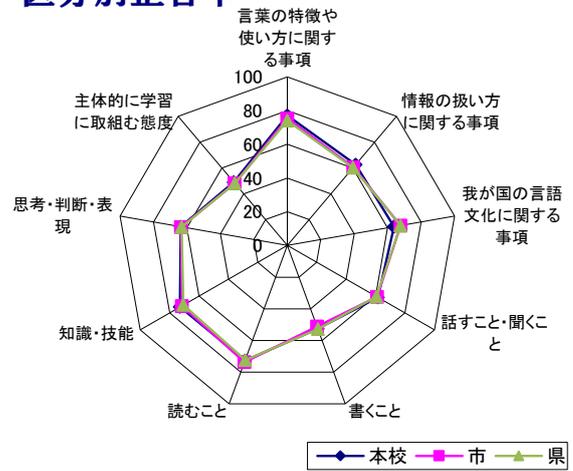
○テレビやゲーム、携帯電話の使用時間は県や市と比べて短い。時間を決めて、それを守って使用している様子が伺える。

●学習に対する取組については、県や市の肯定割合を下回る項目が多かった。一方「自分のよさを人のために生かしたいと思う」では市の平均より6.3ポイント、「自分がもっている能力を十分に発きたい」では7ポイント高かったので、自分の能力を人のために生かしたいという前向きな気持ちはあると考えられる。家庭学習の仕方を指導するとともに、児童が自信をもって、進んで学習に取り組めるような声掛けをしていきたい。

宇都宮市立陽東小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	77.1	75.4	74.1
	情報の扱い方に関する事項	62.6	60.5	60.2
	我が国の言語文化に関する事項	63.8	67.7	67.8
	話すこと・聞くこと	61.7	61.0	60.7
	書くこと	52.6	51.2	52.8
	読むこと	72.7	73.7	72.4
観点	知識・技能	73.0	71.7	70.6
	思考・判断・表現	63.7	63.5	63.2
	主体的に学習に取り組む態度	49.0	48.2	48.1



★指導の工夫と改善

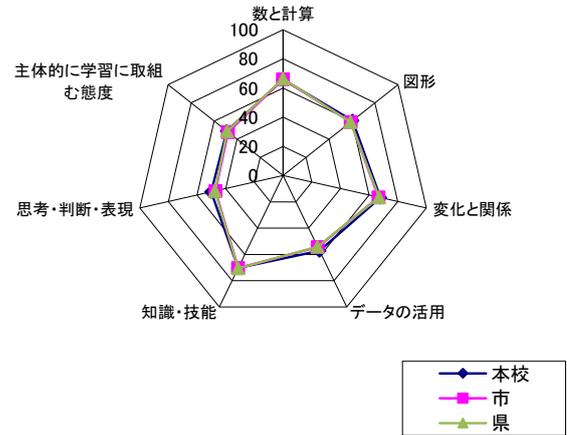
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○平均正答率は、県・市の平均を上回っている。 ○漢字を書く問題は、県の平均を大きく上回っているものが多い。	・既習の漢字を使う場面を増やしていく中で、画の長さやはね、はらい等を意識して、正しく書けるよう指導を継続する。
情報の扱い方に関する事項	○平均正答率は、県・市の平均を上回っている。 ○漢字辞典の使い方をよく理解している。 ○複数の情報の関係について、しっかりと理解する力がついている。	・昨年と比べて、複数の情報の関係についての理解が深まっているので、今後も継続して指導していく。 ・学校や家庭で、積極的に漢字辞典を活用させていく。
我が国の言語文化に関する事項	●平均正答率は、県・市の平均を下回っている。 ●ことわざの意味や正しい使い方を問う問題では、県の平均正答率と比べて、4ポイント下回っている。	・スタンダードダイアリーを活用するなどして、日常的にことわざに触れる環境を作る。
話すこと・聞くこと	○平均正答率は、県・市の平均とほぼ同じである。	・学校生活の中で話し合い活動を充実させ、話したいことを伝える工夫を意識させる。
書くこと	○●平均正答率は、市の平均より1.4ポイント上回っているものの、県の平均より0.2ポイント下回っている。 ○内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書くことはよくできている。 ●指定された行数や段落で書くことの正答率が、県の平均を下回っている。	・原稿用紙を使って文章の構成、特に段落を意識した書き方の指導を、授業中に取り入れていく。 ・書き方のパターンやルールを反復練習で身に付けさせる。
読むこと	○説明文では、叙述を基に、文章の内容を捉えることができている。 ●登場人物について具体的に考える問題は、県の平均を5.3ポイント下回っている。	・様々な物語に親しみ、その中で多くの表現に触れる機会をつくる。

宇都宮市立陽東小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	65.8	66.1	66.4
	図形	60.6	58.9	58.8
	変化と関係	67.9	66.6	67.0
	データの活用	57.3	54.4	54.2
観点	知識・技能	70.3	70.4	70.6
	思考・判断・表現	50.2	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	49.0	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

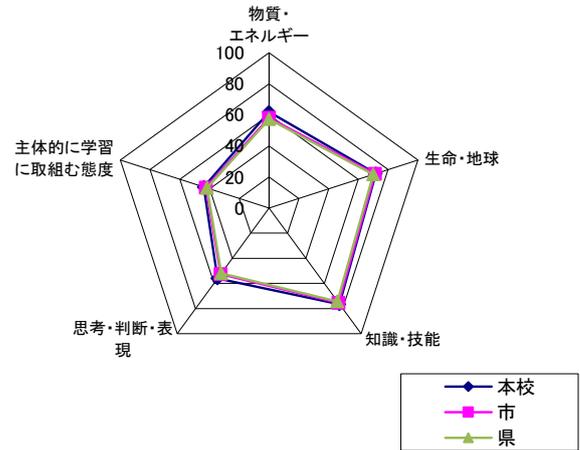
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○小数の足し算、掛け算の問題では、県の平均を大きく上回っている。</p> <p>●概数の問題では、県の平均を10ポイント以上下回っている。</p> <p>●3桁÷2桁(余りあり)の問題では、県の平均を13.2ポイント下回っている。</p> <p>●計算のきまりの問題では、県の平均を下回っている。</p>	<p>・個別指導を充実させ、基礎学力を定着させる。</p> <p>・AIドリルや繰り返しドリルを解くだけでなく、様々な形式の問題を学習することで基礎的な計算力を身に付けさせていく。</p> <p>・計算のきまりを教室に掲示するなどして、学習したことの定着を図る。</p>
図形	<p>○平均正答率は、県・市の平均を上回っている。</p> <p>○角の大きさの問題では、県の平均を5ポイント以上上回っている。</p> <p>●平行四辺形の作図の問題では、県の平均を18.9ポイント下回っている。</p>	<p>・コンパスや三角定規を使った作図の反復練習をすることで、技能の定着を図る。</p> <p>・身近なものの長さや面積を実感として捉えさせるために、児童自身が必要な大きさを測る活動を取り入れたり、生活と結び付けながら積極的に面積の量感を取り上げたりしていく。</p>
変化と関係	<p>○平均正答率は、県・市の平均を上回っている。</p> <p>○伴って変わる2つの数量の一方の値からもう一方の値を求める問題では、県の平均を約4ポイント上回っている。</p> <p>●簡単な場合についての割合の問題では、県の平均を約3ポイント下回っている。</p>	<p>・2つの量の変わり方の表の見方は定着しているので、そこから式を立てて、もう一方の値を求める方法も指導していく。</p> <p>・2本のテープ図から簡単な割合を考える問題に取り組ませる。目盛りとテープ図の区切りに注目させ、未知数である口とどんな関係あるかを様々なパターンで考えさせる問題にも取り組んでいく。</p>
データの活用	<p>○平均正答率は、県・市の平均を上回っている。</p> <p>○2つの折れ線グラフから必要なことを読み取る問題では、県の平均を13.9ポイント上回っている。</p> <p>●二次元表の欄を示し、知りたいことの求め方を説明する問題では、県の平均と同じく約20%の正答率しか得られなかった。</p>	<p>・タブレットの活用により情報を読み取る力が高くなっていると思われるので、そのような取り組みをさらに進めていく。</p> <p>・社会科など他教科で扱うグラフや統計資料の読み取りでも、積極的に算数での学習内容を活用していく。</p> <p>・二次元表の見方をもう一度確認し、他教科や学校生活の様々な場面で活用して、その有用性を改めて確認していく。</p>

宇都宮市立陽東小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	61.9	58.1	57.2
	生命・地球	71.7	71.1	70.0
観点	知識・技能	76.6	75.5	74.4
	思考・判断・表現	56.0	52.7	51.9
	主体的に学習に取り組む態度	43.9	42.4	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○平均正答率は県の平均を4.7ポイント上回っている。</p> <p>○物のあたたまり方、水のすがたの問題では、県の平均を5ポイント以上上回っているものが多い。</p> <p>○物の体積と力の問題で、気泡シートが閉じ込められた空気のどのような性質を利用しているかを説明する問題の正答率が72.4%で、県の平均を14.2ポイント上回った。</p> <p>●物の体積と温度の問題では、金属のふたを湯につけると開けやすくなる理由について、温度による金属の体積変化をもとに記述する問題の正答率が46.6%で、県の平均を10.8ポイント下回った。</p>	<p>・学習したことを日常生活と結び付けながら考えられるようにする。</p> <p>・実験や観察をする際にノートやワークシートを活用し、自分の予想や結果を自分の言葉でまとめることができるように、指導していく。</p>
生命・地球	<p>○平均正答率は県の平均とほぼ同様である。</p> <p>●1年間の植物の成長や1年間の動物のようすの問題で、県の平均を下回るものがあった。</p> <p>●月と星の問題では、満月の1日の動きを問う問題が67.2%で、県の平均を9.1ポイント下回った。</p>	<p>・生き物の様子について、実際に見ることができないものについては、写真などを活用する。</p> <p>・天体を扱う問題では、動画等を活用しながら、月の動きや見え方について理解できるようにする。</p> <p>・身の回りの自然現象や科学的事象について、身近なものとして捉えることができるよう、授業で様々な話題を提供し、普段から自然との関わりを意識させる。</p>

宇都宮市立陽東小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」に対する肯定的な回答が79.3%であり、市の平均を15.6ポイント上回っている。一人一台端末を使いこなし、必要な情報を集めたり、問題に取り組んだりすることができつつある。

○「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」に対する肯定的な回答が93.1%であり、市の平均を6.9ポイント上回っている。また、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」に対する「はい」の回答が53.4%であり、市の平均を12.7ポイント上回っている。普段の授業から、学び合いを大切に、話し合いによって課題解決に迫る学習展開を行っていることが、成果となって表れている。

○「先生は学習のことにほめてくれる」に対する肯定的な回答が100%であり、市の平均を11ポイント上回っている。本学年は、自己肯定感が高い児童が多いが、自分の頑張りを認めてくれていると感じている児童が多い。

○「人と話すことが楽しい」に対する肯定的な回答が100%であり、市の平均を4.7ポイント上回っている。5年生全員が人の会話を前向きに考えていることがわかる。休み時間には、教室内でたくさんの児童が、友達との会話や教員との会話を楽しんでいる姿が見られている。

○「自分は家族の大切な一員だと思う」に対する肯定的な回答が100%であり、市の平均を5.8ポイント上回っている。自己肯定感の高さにもつながるが、一人一人が各家庭の中で、しっかりと愛情を受けて育てていることがわかる。

●「テレビのニュースやインターネットのニュースを見ている」に関する肯定的な回答は75.9%であり、市の平均を7.5ポイント下回っている。一方「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある」に対する肯定的な回答は81.1%であり、市の平均を6.2ポイント上回っている。関心はあっても、自分から情報を集めて考えるような行動にはつながっていない。社会の出来事について、これからも折に触れて紹介し、自主学習としてニュースについて調べてくるような活動を取り入れていきたい。

宇都宮市立陽東小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・ICT活用による主体的に課題解決できる児童の育成	・Googleツールを活用した協働的な学びの実践。学習に対して困り感のある児童に対する個別支援や様々な授業における、目的に応じた学習方法や学習環境の工夫。	・「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するしようほうを得ている」についての肯定割合は、4年生で市の平均よりも9ポイント、5年生で15.6ポイント高かった。
・家庭学習の習慣化に向けた取り組み	・3～6年生では宿題のほかに自主学習ノートを利用した学習に取り組ませ、定期的に提出するよう指導している。	・「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」に肯定的に回答した児童の割合は、市の平均よりも4年生で4.4ポイント、5年生で7ポイント高かった。「家で学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」についての肯定割合は、5年生で市の平均よりも7.2ポイント高かった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・算数の図形の領域において、4,5年生ともに作図の問題に課題が見られた。	・日常的に道具を使う習慣を付ける。	・コンパスや定規、分度器などの使い方を見直すと同時に、既定の長さや角の大きさになるように、丁寧に作図させる。 ・図形の作図については、なぜその方法で作図することができるのかを理解させる。